

## 住宅と室内ドア その3

## Vol. 16

P

## 第16号のポイント

1. スウェーデン製の室内ドアはキープレート付が標準仕様。
2. 規格が統一されているためメーカーによらず互換性がある
3. 建材を長く使っていくには、部材間の互換性が重要。

?

## 筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)  
 1975年 群馬県生まれ  
 日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。  
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。  
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。  
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。  
 筆者ホームページ：  
<http://mala-gruppen.com>



キープレート付スウェーデンのレバーハンドル

Hejsan! 今回はスウェーデンの室内ドア用レバーハンドルについてお話しします。スウェーデンのレバーハンドルの特徴は、何といてもキープレートが付いている事です。この鍵穴は飾りではなく、専用の鍵があって実際に施錠することができます。まさに、おとぎ話に出てくるようなドアですね!

スウェーデン製の室内ドアは、内部に開き戸用錠のケースロックが内蔵されていて、上下に二つの穴が開いています。上部にはレバーハンドルが、下部にはキープレートが通常取り付けられています。上部はラッチボルト(扉の端から出る突起)を動かすもので、下部はその動きを固定する機能があります。このように機能を分け規格を統一することで、上部は好きなデザインのハンドルを取り付けることができ、下部は、標準のキープレートの他に、サムターンや本格的なシリンダー錠を取り付けることもできます。

こうすることで、ドアのメーカーに関係なく、様々なメーカーのハンドルが使えるようになります。ドアの種類によって厚みは若干異なりますが、ハンドルやキープレートを固定するネジが、長さ調節可能なつくりになっているため、厚みに関係なく取り付けられる・・・というわけです。どうしてこのような規格で統一されているかというと、ドアは何十年も使うことを想定しているからです。ドア扉が長く使えても、付属する金具が交換できないと、ドア自体の寿命が短くなってしまいます。

建材を長く使っていくためには、建材を構成する個々の部材の耐久性を上げるだけでなく、部材間の互換性を持たせておくことも重要なのです。これは住宅を長く使っていくための建材のあり方にも共通することです。次回は、スウェーデンのフローリングをご紹介します。お楽しみに!

文責 金井田晃央 ( 筆者へのお問い合わせ先: [info@mala-gruppen.com](mailto:info@mala-gruppen.com) )

**Innovatio** : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。